

医療人能力開発センター & 医学教育センター

Wind News letter No.44

No.1-43は「GUNMAS」およびHPIに掲載しています

医療人能力開発センターホームページ

<http://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>

こちらから入って各部門をクリックしてご覧ください。



2015.11.19 No.44

医療人能力開発センター

臨床研修センター/スキルラボ部門
女性医師等教育・支援部門
群馬県地域医療支援センター
看護職キャリア開発センター(仮)

内線 7736 E-mail: c-center@ml.gunma-u.ac.jp

医学教育センター

内線 8017

E-mail: ome.gunma.univ@gmail.com

第一回「内科グランドカンファレンス」開催報告

2015年10月7日(水)

10月7日(水)、臨床大講堂にて、第一回「内科グランドカンファレンス」が開催されました。循環器内科、呼吸器内科、消化器・肝臓内科、内分泌糖尿病内科、腎臓・リウマチ内科、血液内科、脳神経内科の7診療科が一同に会しての企画です。開催にあたり、①死亡症例を含めた問題症例の検討、②内科新専門医制度についての説明、③臨床的知識を高めあうための横断的なテーマのレクチャーを3本柱として、倉林内科診療センター長を中心に、各診療科長、副診療科長、医会長で検討しプログラムを作成しました。死亡症例検討会は、現在、各診療科で開催されており、長くなりすぎないようにとレポート提示のみを基本とし、重要なバリエーションがあった問題症例や、教訓的な症例に限って重点的なディスカッションをすることとしました。

私(小板橋)から新・内科専門医制度に向けた群馬大学内科診療センターの取り組みの説明、次いで、山田教授から専門医制度の最新情報についてコメントをいただきました。その後、新内科専門医には必須項目である救急救命講習「JMECC」について、消化器・肝臓内科の佐藤先生から説明がありました。死亡症例検討会は、複数の科が関わる症例もあり、有意義なディスカッションとなりました。その後、「内科疾患の診断・治療のピットホール」として、山田教授より高カルシウム血症の鑑別をテーマに、示唆に富む症例を含めてレクチャーをしていただきました。

7つの内科診療科の医師が数多く集まり、盛りだくさんの内容で3時間近くになりましたが、なごやかな雰囲気ですべて終了しました。業績を競うことも重要ですが、お互いの診療科を尊重しあい、知識を共有しようとするよい機会であり、大変有意義なカンファレンスであったと思いました。

(内科診療センター事務局長 循環器内科 小板橋紀通)

第二回「内科グランドカンファレンス」は1月20日(水)の予定です。ぜひご参加ください。



カンファレンスの様子



病院長賞を受賞して 初期臨床研修医1年目 渡邊 隆嘉

今回の発表会では、私が今年度の消化器・肝臓内科研修中に経験した症例「右房内腫瘍を合併した蛋白漏出性胃腸症の1例」（著明な低アルブミン血症をきたした蛋白漏出性胃腸症）について発表させていただきました。本例は診断と治療に至るまでに非常に難渋しましたが、診療チームの先生方と鑑別疾患を一つ一つ丁寧に検討し、多くの他科診療科の先生方にコンサルトしながら診療にあたりました。

蛋白漏出性胃腸症は、続発性であればその基礎疾患を治療することで蛋白漏出の改善につながるとされています。しかし本例は、蛋白漏出を生じ得る基礎疾患の検索を徹底的に行いましたが明らかな続発性の原因となるような疾患は認めませんでした。原発性の蛋白漏出性胃腸症として入院後から栄養療法とアルブミン補充を行っていましたが、数週間すると低アルブミンが再燃してしまう状態で、「このまま保存的に見ていくしかないのか？」と私は感じていました。北9階病棟の合同のカンファレンスや回診でもディスカッションを重ね、ステロイド投与で蛋白漏出が改善した報告があり検討する方針となりました。その結果、スクリーニングで実施した心エコーで右房内腫瘍を発見することができました。振り返ってみてもステロイド投与前に、あらゆる可能性を考慮し除外診断を行う重要性を痛感しました。また、消化器・肝臓内科と各診療科が連携したからこそ診療できた症例であり、チーム医療の大切さを実感しました。今後、こうした症例を経験できることの魅力、そして患者さんの病態を深く考えながら診療に当たることの大切さを積極的に学生に伝え、当院の臨床研修医の増加に貢献したいと思います。

最後になりますが、今回の発表に当たり指導医の山崎先生、診療チームの富澤先生をはじめ、消化器・肝臓内科の先生方には熱意あるご指導をいただきました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

**ベスト指導医賞を受賞して 消化器・肝臓内科 山崎 勇一**

渡邊先生、受賞おめでとうございます。また、私まで賞をいただき光栄です。潜んでいた疾患を見事に診断したという自慢話ではなく、私たちの経験した驚きをちょっとした教訓として皆さんに知っていただきたいという気持ちで提示させていただきました。

チームカンファで念のため循環器内科に相談しようと提案したのは、ステロイド導入の方針となった消化器カンファに出席できなかった外来主治医でした。心エコーの動画で右房内を激しく動く有茎性の腫瘍を研修医の先生と確認した時の驚きは今でも忘れられません。病理の結果、蛋白漏出性胃腸症を発症した世界初の心臓粘液腫ではなく、器質化血栓だったと判明した時が2度目の驚きでした。原因として当科の合同カンファではカルチノイド心疾患、血液内科の先生からは先天性プロテインS欠損症など、消化器内科医からすれば想定外の疾患が列挙されました。まだ結論は出ず、その後も想定外の経過をたどっていましたが、最近ようやく好転してきたので少し安堵しているところです。

何かを探しているときに、探しているものとは別の価値あるものを見つけることあるいはその能力をセレンディピティというようです。脳科学では行動・気づき・受容がセレンディピティの必須条件であり、また起業においては多くの人と出会うことがセレンディピティを磨くために大切とされています。この経験がセレンディピティかどうかはわかりませんが、私たち臨床医にも大切なことではないでしょうか。もちろん診断学や診断指針、治療指針に基づき適切な過程で診療を進めていくこと、経験を積んで想定内の範囲を広げていくことは重要ですが、実臨床において些細なことも含めれば予期せぬことはよく起こることで、そんな時に如何に行動し気づき、受容し、多くの人力を借りられるかも臨床医として大切な力だと思います。

最後に期待以上のプレゼン力を発揮した渡邊先生、一緒に糞便検査を行った研修医の先生方、診療科の枠を超えて様々な視点で力を貸していただいた多くの先生方に、心より御礼申し上げます。



医学部長賞を受賞して

初期臨床研修歯科医2年目 北野 智大

この度は、医学部長賞という栄誉ある賞を頂きましてありがとうございます。これも日々遅くまで大勢でご指導頂いた医局の先生方のお陰と大変感謝しております。

今回の症例報告にあたり、確実な問診、臨床検査を着実に積み重ねていく過程がいかに重要であるかを痛感致しました。また、患者さんそれぞれの背景に合わせた治療方針を選択する重要性を改めて認識することができました。何よりも、他科の貴重な症例を知ることができる有意義な機会となりました。このような機会を設けて下さった臨床研修センターの方々にも大変感謝しております。

最後に、歯科口腔・顎顔面外科 横尾教授、菅原先生をはじめ、厳格で熱意溢れる御指導を注いでおられる指導医の先生方に改めてこの場を借りて深く御礼申し上げます。



ベスト診療科賞を受賞して

血液内科 石崎 卓馬

この度はベスト診療科賞という名誉ある、そして励みになる賞をいただき誠にありがとうございます。当科では研修医の先生方にも積極的に学会発表をしていただき、発表を通じて疾患を理解し学会発表のテクニックを学んでいただいております。この賞を頂けたのは、忙しい診療のなかで内科地方会、日本血液学会、日本血栓止血学会および研修医発表会で発表していただきました研修医の先生方と指導医の先生の努力の賜物と感じております。

血液内科の研修では、造血器腫瘍・造血不全症・凝固異常症・HIV感染症に対する診療を通じて、内科の基本から専門医療まで経験していただけるよう心がけております。研修医の先生方に何うと血液内科は忙しくて大変な科だというイメージが強いようです。確かに重症で複雑な病態を有する患者さんも多いですが、それらをできるだけ詳細に考察することで内科学の醍醐味を体験できるのは、研修医の先生からも好評です。造血器腫瘍は化学療法が奏功しやすく分子標的療法をいち早く導入されるため、重症患者さんが驚くほどに改善するダイナミックな経過もきっと印象に残ると思います。また悪性腫瘍や慢性疾患といった患者さんに寄り添い、困難な状況を共有する経験を通じて医師としての人間性も成長することと思います。

内科診療センターとなり、血液内科として診療・教育を行う機会が増えております。新たに就任された半田診療科長を中心に、より魅力的な研修医教育・学生教育を目指しており、若い先生方と働くことを楽しみにしています。ぜひ血液内科で一緒に働きましょう！



写真は当日診療科を代表して賞状を受け取られた小磯博美先生

今年で5回目となる研修医症例発表会には今年も11診療科から合計28の演題が寄せられ、例年同様、どの発表もすばらしい内容でした。お忙しい中、指導に当たってくださった先生方、発表者の研修医の皆さん、またご参加くださった皆様、大変ありがとうございました！（菊地）



見事病院長賞に輝いた研修医1年目の渡邊隆嘉先生は、本院代表として、11月13日（金）に開催された「ぐんまレジデントグランプリ」に出場しました。

恒例となりましたWind Joy Net Plus Meetingを今年も開催しました。初参加の荒川センター長にご挨拶いただきましたが、女子力にやや圧倒されたようでした。



耳鼻咽喉科の多田紘江先生、放射線科の岡野奈緒子先生、内分泌糖尿病内科の中島康代先生によるミニレクチャーでは、それぞれの仕事と家庭のこと、これからやりたいこと、各診療科での楽しい様子などを聞かせていただきました。参加した医学生の方も具体的に将来を考える良い機会となったと思います。各診療科の参加者からもご挨拶、診療科の紹介をいただき、その後は楽しい懇談の場となりました。



- ・女性医師のリアルなお話を聞いて、医師になっても周りの協力を得ながらがんばれそうだと思います。
- ・がんばっている女性の先生のお話がきけてとても元気を頂きました！
- ・興味のある科の先生とポリクリの時よりも長く話すことができました。 (アンケートより)

医学教育センターより、統計に関するセミナーのお知らせです！！

1. 超初心者向けSPSS講習

- 開催日時：2016年1月9日(土) 14:00~17:00
- 講師：群馬大学非常勤講師 藤田 晴康 先生
- 開催場所：情報処理演習室A (共用施設棟3階)
- 申込締切：2015年12月28日(月) 先着30名

2月および3月にもセミナーを開催予定です。詳細が決定次第、随時、院内掲示およびHPにてお知らせいたします。

2. 臨床医のための統計セミナー

「後悔しないための 研究デザインとサンプルサイズ設計」

- 開催日時：2015年1月30日(土) 14:00~15:30
- 講師：群馬大学大学院保健学研究科 林 邦彦 教授
- 開催場所：臨床中講堂
- 申込締切：2016年1月20日(水)

SPSS講習・統計セミナーに関する

お問い合わせ・お申込み

医学教育センター 井手野

e-mail : cme.gunma.univ@gmail.com

群大教職員のための画像診断学～医療安全編～

2015年11月26日(木)

【講演】

1. 造影剤の安全使用について
2. 院内死亡症例の オートプシー・イメージング(AI)について

【講師】

対馬 義人 放射線部 教授
平澤 聡 放射線部 助教

【場所】 臨床大講堂

【日時】 11月26日(木) 18時~19時30分

お問い合わせ

群馬大学大学院医学教育センター (担当：菊地/井手野)

FAX : 027-220-8017

e-mail : cme.gunma.univ@gmail.com

編集後記 (2015.11.19)

先日行われたぐんまレジデントグランプリでは県内13の研修病院からの発表があり、臨床大講堂で立ち見となるほどで、懇親会も大変賑やかに行われました。医学生の臨床実習も新しいカリキュラムとなり、もうすぐ医学科4年生がスチューデントドクターとして、診療参加型の実習に取り組みます。指導する先生方も大変とは思いますが、次回は医学教育センターから新しい臨床実習について紹介していただく予定です。(YN)